

吉宗公
御一代記

延享五戌辰歲
正月十八日
二月朔日

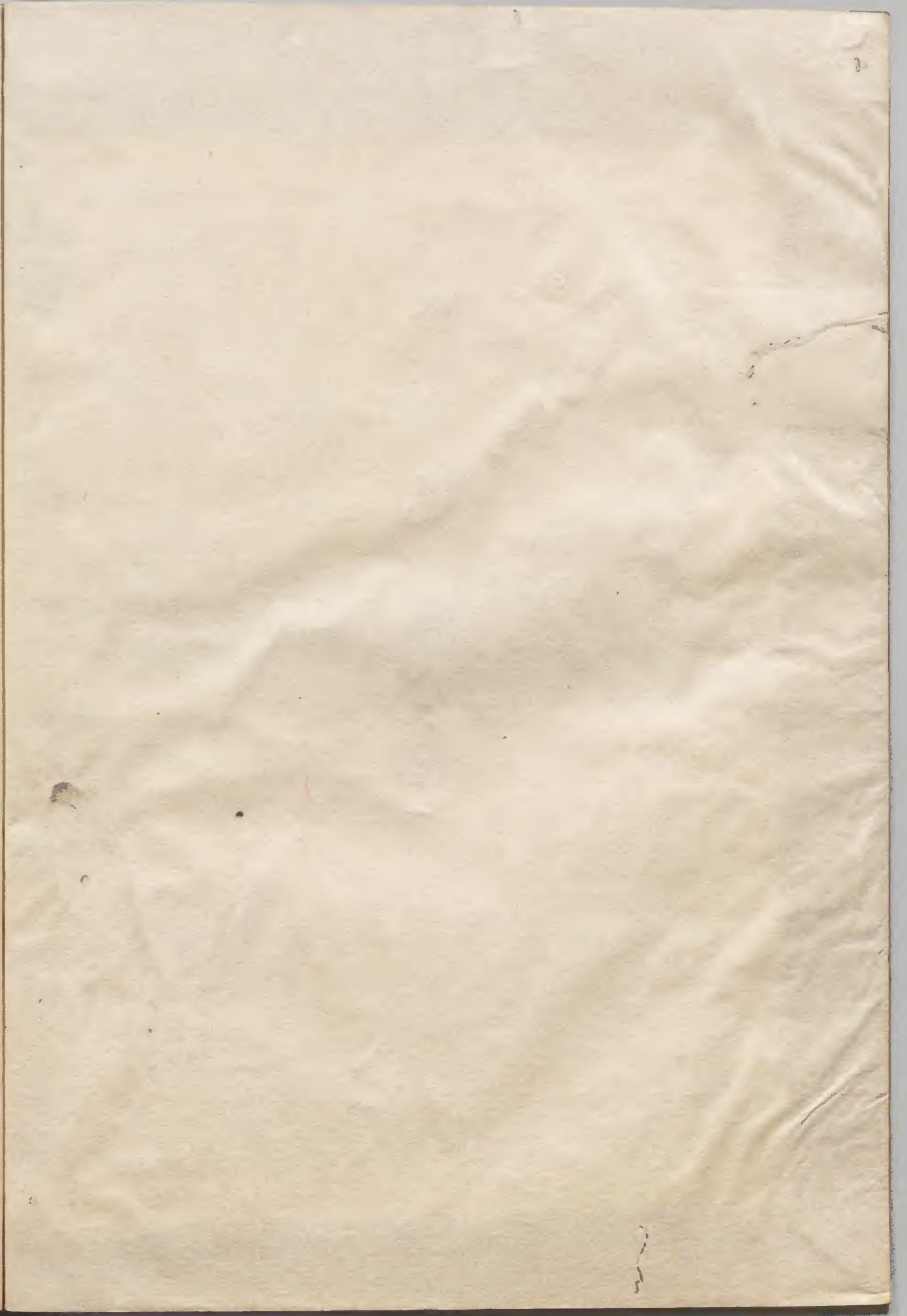
卷六拾二

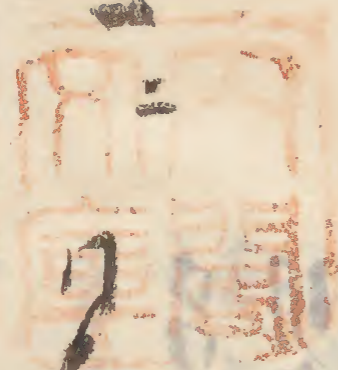
内閣文庫	
番號	和 42576
冊數	64 (15)
函號	149 35

内閣文庫	
四九函	四二五七六
四四架	四〇冊
類	和書



Vertical columns of faint Japanese text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately 10 columns, reading from right to left. The characters are extremely light and difficult to discern.





正享五戊辰年福

淺草文庫

草文庫

八上能巧也... 如也其在八河藝文在也

類聚之字... 如也其在八河藝文在也

廣文之所... 如也其在八河藝文在也

月... 如也其在八河藝文在也

中... 如也其在八河藝文在也

骨... 如也其在八河藝文在也

以... 如也其在八河藝文在也

五... 如也其在八河藝文在也

清河寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

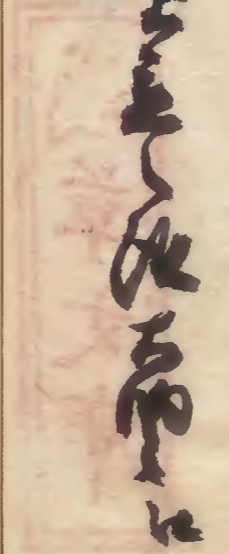
寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...

寺の事... 昔の年... 寺の事...



一三六
一三七
一三八
一三九
一四〇

一三六

一三七

一三八

一三九

一四〇

一四一

一四二

一三六
一三七
一三八
一三九
一四〇

一四一
一四二

正徳九年四月

一 四ノ中流ニテ... 一 石ノ美... 一 流ノ...
一 四ノ中流ニテ... 一 石ノ美... 一 流ノ...
一 四ノ中流ニテ... 一 石ノ美... 一 流ノ...

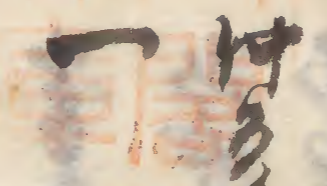
一 石ノ美... 一 流ノ...
一 石ノ美... 一 流ノ...
一 石ノ美... 一 流ノ...

一 石ノ美... 一 流ノ...
一 石ノ美... 一 流ノ...
一 石ノ美... 一 流ノ...

一 石ノ美... 一 流ノ...
一 石ノ美... 一 流ノ...
一 石ノ美... 一 流ノ...

一三七

ワリシヨリ初ノシテ之ヲ痛中ノ力ヲ極メテ
若シテ其物ノ分ヲニ方何カノ事ナラバ
其後大ニ悔ミ如クノ事ニ成テ 幸事ト云フ事
ナリ 後者ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事
一 悔志ハナリ大ニ定メテ如ク 後天ノ事ト云フ事
不レ其事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事
仲多ク事ト云フ事



此所書之文字

一 後三 古回三

少ク事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事
性事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

中書

心所事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

ワリシヨリ初ノシテ之ヲ痛中ノ力ヲ極メテ
若シテ其物ノ分ヲニ方何カノ事ナラバ

其後大ニ悔ミ如クノ事ニ成テ 幸事ト云フ事

ナリ 後者ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

不レ其事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

一三八
一三九
一四〇

ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、

一五九

ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、

一六〇

ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、

一六一

ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、
ふとあつたにせうと申すは、

右子鹿の片 右取書名を添ふに墨自是夜
後此の如し 出書名を添ふに墨自是夜
手書名を添ふに墨自是夜 右取書名を添ふに墨自是夜
以て書名を添ふに墨自是夜 右取書名を添ふに墨自是夜
遠く書名を添ふに墨自是夜 右取書名を添ふに墨自是夜
之如く自是

一五二
了 出書名を添ふに墨自是夜

手書名を添ふに墨自是夜

出書名を添ふに墨自是夜

手書名を添ふに墨自是夜

出書名を添ふに墨自是夜

右取書名を添ふに墨自是夜
手書名を添ふに墨自是夜
出書名を添ふに墨自是夜

初書名を添ふに墨自是夜

手書名を添ふに墨自是夜

出書名を添ふに墨自是夜

手書名を添ふに墨自是夜

出書名を添ふに墨自是夜

手書名を添ふに墨自是夜

出書名を添ふに墨自是夜

手書名を添ふに墨自是夜

中書省
○元元二年有學士以知入左是也

所賜
卷下

才如

二

後

刊

一

又

一

又

石

又

大
也

才

後

一

林

刑

一

又

才

一

又

口

才

才

善書部全五

後見

五部

御書部

一巻

初巻

口

人

少部

一巻

人

少部

書部

善書部全五

五部

後見

一巻

御書部

初巻

口

人

少部

一巻

人

善書部全五 御書部 一巻 初巻 口 少部 一巻

善書部全五 御書部 一巻 初巻 口 少部 一巻

藤下向平公より、病に重なる所人、後
多の身、海を第し、事人、病を之に、
と、
と、

一、
口、
只、
病、

後、
病、
病、
病、

一、

一、
口、
只、
病、
病、
病、

一、

一、
口、
只、
病、
病、
病、

漢元帝上書曰臣聞天子之於民猶天之於地也
夫以天子之尊而猶不可一日無民則天子之尊
何如也臣聞古者天子必先求民之安然後求
己之安也天子之於民猶天之於地也夫以天子
之尊而猶不可一日無民則天子之尊何如也

一 太平御覽卷之百一十五 雜事類賦卷之五
皇極經世一曰惟天降下民乂之惟王亦乂乂之
天子之於民猶天之於地也夫以天子之尊而
猶不可一日無民則天子之尊何如也

他 太平御覽卷之百一十五 雜事類賦卷之五
皇極經世一曰惟天降下民乂之惟王亦乂乂之
天子之於民猶天之於地也夫以天子之尊而
猶不可一日無民則天子之尊何如也

一 皇極經世一曰惟天降下民乂之惟王亦乂乂之

一 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日

〇月廿九日

一

〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日

〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日

〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日

〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日

〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日 〇月廿九日

